

和歌山県立海南高等学校 TISF 派遣

【 日 程 】	平成27年2月4日(水)～2月10日(火)	6泊7日
【 参加者 】	生徒2名(清水 佳祐、 佐々見 和也)	
【 引率教員 】	教諭2名(西 真美、 宮崎 裕之)	

1日目 2月4日(水) 台湾に向けて出発

関西国際空港から、台湾に向けて飛び立ちました。私達にとって、初めての海外です。空港のロビーを探すと、Keisuke Shimizu と書いた紙を掲げた人物を発見、迎えに来て下さった方だと分かりました。

空港からホテルまでは、シンガポールのチームと一緒に行きました。おしゃべりが大好きな生徒男女1名ずつで、次々と英語で話しかけてきました。しかし、何を聞かれているのかあまり理解できず「英語が理解できれば楽しいだろうな」と思いました。

シンガポールの引率の先生は、日本に旅行に来たことのあるらしく、日本語を流暢に話すことができ、先生も生徒も日本や日本の文化に大変興味があるようでした。

ホテルでは、台湾の高校生が待っていてくれて、明日のスケジュールなどについて丁寧に教えてくれました。

2日目 2月5日(木) 大会登録とポスターの掲示 ウェルカムディナー

TISF が、始まりました。バスを降りると、「Japan」と書いた札を持った台湾の高校生が出迎えてくれました。

TISF では、台湾、海外20ヶ国のトップレベルの研究発表が行われます。まず、大会全般にわたるスケジュールの説明を受け、ポスターの掲示を行いました。

その後は、会場でもある科学教育館内の見学をしました。

私達を案内してくれた台湾の生徒は、小学校の頃から日本のアニメを見て日本語を独学で学んだそうです。そのため、日本語も交えながら案内してくれて大変助かりました。

午後は、オープニングセレモニーに備えて、白衣のデザインをしました。絵心のない私達に、台湾の高校生が昨年のデザインなどを見せてくれながらアドバイスをしてくれました。

夕刻には、ウェルカムディナーに参加しました。香港チームと同じテーブルで、正月の福の字が逆に吊るしているのは「福を呼ぶため」など文化について教えてくれました。

台湾の生徒による学校と台北の紹介は、ユーモアも交えて分かりやすく、よく準備してきたことが分かりました。カンフウのパフォーマンスも、見る人すべてを楽しませる内容でした。



ポスターのセットアップ



ウェルカムディナー

3日目 2月6日(金) 午前 オープニングセレモニー
午後 ゲーム(高校生) 教育者ワークショップ(教員)

オープニングセレモニーでは、各国の生徒が昨日デザインした白衣を着て舞台上に登場しました。

有名な教育者である Dr. Richard Myhill の「課外活動の重要性」と米国留学後、台湾に戻りコンピュータ関連の企業家として活躍している、Dr. Ben Jai の「科学の創造性とビジネス」についての講演に聴きました。

午後は、台湾の生徒がついてくれて、各国の高校生達とゲームを楽しみました。教育科学館を周り、科学に関する問題を解いていきました。海外の生徒と活動するのが初めての私達にとって、台湾の生徒のサポートが大変心強く感じられました。



オープニングセレモニー



講演

ホテルに帰った後 大阪府立大学の松坂先生に指導していただき、明日の審査に備えて発表の練習を行いました。強調する部分の話し方など、英語でのプレゼンで重要なことを丁寧に教えていただきました。

4日目 2月6日(土) 研究発表と審査

いよいよ、審査の日です。会場までは先生達と一緒にいき、そこから自分達だけでポスター会場に向かいました。審査日には、発表生徒以外、会場に入ることができません。私達にとって、初めての国際大会、しかも英語での発表です。

台湾の生徒の審査が先のため、私達を含め海外の生徒の所へはなかなか審査員が回ってきませんでした。発表後の質疑応答では、質問の内容を正しく理解し応答することに苦労しました。「自分の研究について発表するだけではなく、言葉のキャッチボールができることの重要性」を感じ、「もっと英語ができれば、自分達の伝えたいことを伝えられたはず」と反省しました。

夜は、多くの国の高校生とともに、台北 101 に行きました。台湾の高校生に、バスとメトロの乗り方を教わりました。また、夜市にもつれていってもらいました。常に「ここに行きたくないですか」「これを食べてみませんか」など聞いてくれ、ホテルまで送り届けてくれる心使いに感謝するとともに、大変感心させられました。

5日目 2月7日(日)

サイエンスツアー

今日は、1日海外の生徒達といろいろな場所を訪れました。午前は、伝統工芸センターへ行きました。昼食は、カナダチームとシンガポールチームと一緒に。カナダチームの生徒が英語でのダジャレなどを教えてくれました。異なる国でありながら、考え方に共通点があり、親近感がわきました。

午後は、文化博物館を訪れました。ピラミッドのようなユニークな建物の前で、全員写真におさまりました。



サイエンスツアー



サイエンスツアー

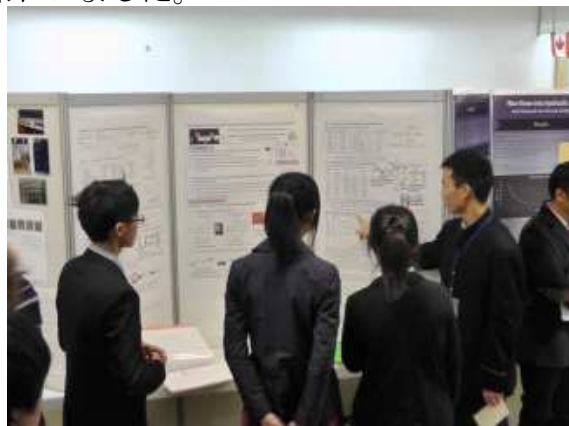
6日目 2月8日(月)

午前 研究発表の一般公開
午後 Award Ceremony(表彰式)
夜 Farewell Party(送別式)

今日は、一般公開です。たくさんの方が、発表ブースを訪れました。同じテーマで研究している海外の学生と、実験方法など、お互いに意見交換をすることもできました。

一週間一緒にすごした、海外の仲間達も発表を聞きに来てくれました。

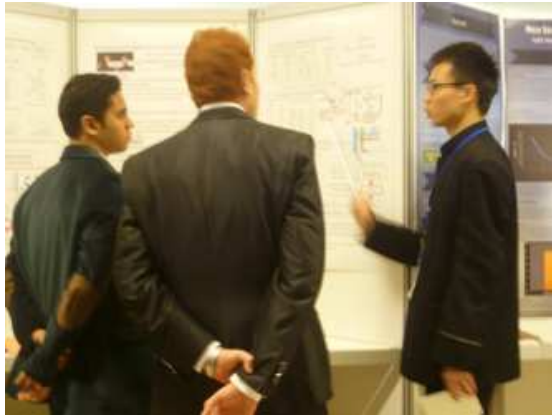
国際大会で、英語で発表することなど考えていなかった自分達が、このように発表し、理解してくれる人がいることを知り「練習してきた甲斐があった」と充実感を味わいました。



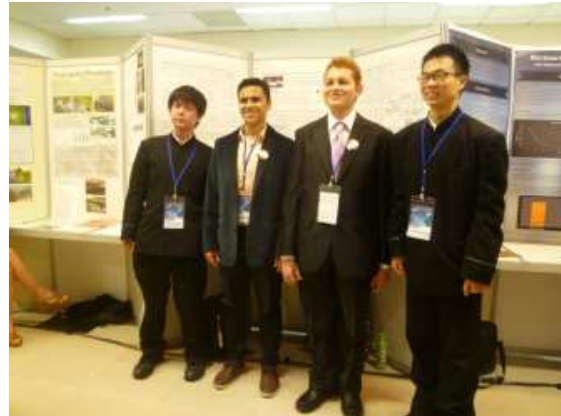
公開発表



公開発表



公開発表



公開発表

審査で、上手く応答できずメダルを逃してしまったのは残念です。自分達の英語力を伸ばすとともに、自分達よりずっと英語が堪能な後輩達に、再度挑戦して欲しいと思います。

夜は、**Farwell Party** が開かれました。各国が、創意工夫をこらした出し物を見せてくれました。ダンス、歌、ゲームなど参加者全員で盛り上がりました、私達は、少林寺の型を披露しましたが、女生徒が1名飛び入りで参加してくれました。海外の生徒は大変活発で、内気な自分達も見習わなければと思いました。

台湾の生徒の、縄跳とびの卓越した技術や参加者全員を引き込むダンスなど国境を越えた一体感とエネルギーを感じました。このような、活発なエネルギーが現在の科学の研究と発展の原動力となっていると思いました。



カナダチームのトーテンポール



フェアウェルパーティ